明日（あした）もしあわせ通信（第34号）

子ども総合センターだより
平成31年4月号

しつけと体罰　「しつけと体罰」森田ゆり著　より

「しつけと体罰のちがいは？」「どこまでしつけで、どこからが虐待なのですか？」との質問を受けることがあります。

はっきり言えることはこどもをしつけるのに、体罰は百害あって一利なし、ということです。愛情や熱意は力ずくでは伝わりません。

発達心理学の調査や研究も体罰が子どもの健康な心の成長を妨げることを、くり返し明らかにしてきました。

しつけとは子どもの自立のための大まかな枠組みを与えることです。子どもが自分で考え、自分で選択して社会の中で生きていけるように、子どもを大まかにガイドすることです。そのためには「子どもを肯定する」「子どもの自分への自信を育てる」「子どもが自分で選ぶように援助する」ことです。

子どもとの良い関係をつくる十の方法

①子どもを尊重する。
②子どもを信頼する。
③比較しない。その子の今までと比べほめる以外は、比較しない。
④子どものほめ方を知る。結果をほめるのではなく、プロセスをほめる。行動をほめる。ほめる側の気持ちを伝える。
⑤気持ちの表現をすすめる。
⑥今を、子どもと楽しむ。
⑦あなたの家庭で大切にしたいこと。
「あなたの家庭では何を大切にしていますか」
⑧行動を選択する援助。
⑨真向き、横顔、後姿。「親として、できることなら自分の後ろ姿だけでなく、前からも横からも学んでほしい」
⑩愛の伝え方。「ありがとう」「生まれてきてくれて、ありがとう」「私の子どもでありがとう」など。

(H.T)

適応指導教室はばたきから　「スポーツタイムを通して」

毎週火・水曜日の午後からの２日間は「スポーツタイム」といって、みんなで体育館で汗を流しています。昨年度の１年間で一番多く実施した種目は、レクバレーでした。このスポーツは、将来子どもたちが学校や職場、地域でのレクリエーションで必ず出合うであろうスポーツの一つです。

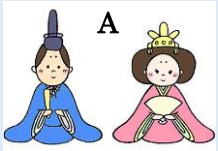
昨年の４月初めは、試合をしてもなかなかボールが次の人へとつながりませんでした。サーブを打っても相手コートに入らないという生徒もいました。そこで、パスやサーブなどの基本的な練習をしたり、相手コートに１回では返さないというルールを作ったりして試合をしてきました。

その結果、３学期には何回もラリーが続くようになり、緊張感のある試合ができ始め、子どもたちはつなぐことの楽しさを感じてくれました。

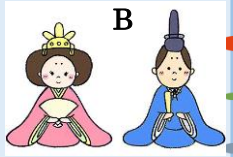
今年も１年間の活動を通して、「次の人へつなぐ」「人と人とがつながる」　ことをレクバレーの試合の場だけでなく、これから生きていく環境や社会の中で子どもたちに学んでいってほしいと思っています。

お子様の不登校に関することは、遠慮なくご相談ください。TEL：089-989-5022

ひな祭り、男雛と女雛は左右どちらがほんと？



旧暦の３月３日（新暦では４月）、お雛様を飾りますが、男雛と女雛は左右どちらに飾るのでしょう。古来、日本は向かって右が上座ですので男雛が右の「B」でした。ところが、昭和天皇が即位されたとき、天皇は左、皇后は右に位置されたことから、最近は男雛が左の「A」が主流となりました。西洋のスタイルに倣ったといえます。今でも、京都など関西では「B」で飾っているところもあります。４月は、邪気払いに使われていた桃の花が咲く頃なので「桃の節句」ともいわれています。雛人形を持って野山や海辺に出かけ、お雛様に春の景色を見せてあげる「ひなの国見せ」という風習があり、春のご馳走と雛あられを持って行っていました。それが今のお花見に通じているのかも・・・。



このような季節のイベントは楽しいだけでなく、心を育てます。パパやママから子へ、じいちゃん、ばあちゃんから孫へ、季節の風習を守り続けながら人々のつながり、絆を深めることができます。楽しみながら、幸せや健康を願うことで、自分だけでなく周りの人たちも幸せのループに巻き込んでいきます。

先日、子ども総合センターの研修会で臨床心理士：柴田智恵先生は、「①情緒豊かな愛情とかかわり　②規則正しい生活リズム　③大切に思っているよと言葉で伝える、④できたね、頑張ったねという言葉かけ　⑤温かいまなざしの見守りと適度な期待」が子どもの成長に必要なものであると話されました。①や③、⑤はまさしく季節のイベントで養われるものだと思います。　（K.F）

センター長のつぶやき　低くなったハードル

先日、尊敬する校長先生が「スマホ時代の子育て」について、最近の子どもは「つまずくハードルが低くなった」「一度つまずくと再び立ち上がれない」など、つまずいてもつまずいても起ち上がってほしいとの願いをこめて話してくださった。

「スマホ時代の子育て」について、国のリーフレットには「どう使わせるか、保護者がしっかり見守りましょう」「時間を決めて利用し、生活リズムをつくりましょう」「大人がお手本に。家族みんなでルールをつくってみましょう」などのヒントが散りばめられている。

悩み苦しんでいる子に、力を与えることができるのは誰か。それは、真に心許せる友であり、心配をしてくれる学校や地域の大人（師）であり、そして誰よりも、ともに悩み苦しみ愛情をいっぱい注いでくれる親ではないでしょうか。その力を得て、一人で悩んでいる多くの子が、一歩前に進んでもらいたい。

本年度も、そんな皆様の願いにお応えし、誰も置き去りにしないことを願って活動できる、子ども総合センターでありたい。　（DOI-G）

《巡回発達相談》

４月になりました

当たり前なのですが、つい１か月前まで幼稚園・保育所に通っていた子どもたちがもう小学生です。

思えば、３月に卒園を迎える頃はどの子も立派にしっかりとしていました。

新しい環境で、不安で泣きたくなったり暴れたくなったりする子がいるかもしれません。

子どもにとって、１年の成長はとても大きいものです。確実に成長していくので、周りの大人は叱ったりほめたりしながら楽しんで成長を見守りましょう。

きっと１年後ぐっと成長を感じることが出来ると思います。

ただ、心配なことはこんなことと思わないで相談してください。　（A）

伊予市子ども総合センター
〒799-3127 伊予市尾崎３－１
伊予市総合保健福祉センター２階
☎９８９－６２２６　携帯 080-2974-4580